

成果の説明書

(氏名) 山崎 薫里	(学部) 経済学部
1 重要事項	
研究	
<ul style="list-style-type: none">● 「単調作用素の構造の解明と選好理論への応用」の研究(科学研究費補助金, 基盤研究(C), 研究代表者)として, 基礎文献の問題点の整理し, 幾つかの結果の改良をおこなった。次年度以降, 論文としてまとめる計画である。● 国際誌への投稿論文のレフリー, および, 出版論文のレビュアーを務めた。	
教育	
<ul style="list-style-type: none">● 遠隔授業は, 資料・音声または映像によるオンデマンド授業で対応した。じっくり考えることができるというオンデマンドの特性を生かし, 考えさせる課題を適度なレベルで提示することを心掛けた。「対面授業よりも自分のペースでゆっくり理解することができた」という感想が多くあった。● 演習は, 遠隔と対面のハイブリッド型で対応した。出席率は例年よりも高く, 4年生(休学中を除く)は全員が卒業論文を提出することができた。	
2 その他の事項	
特になし。	
3 次年度以降の計画・抱負	
<ul style="list-style-type: none">● 本年度の研究を継続し, 結果を論文としてまとめたい。● 本年度に研究代表者として高崎市内で開催予定であったジェネラルトポロジーシンポジウムは, コロナウイルス感染拡大防止のために中止となったが, 来年度に延期して開催予定である。	